

# EXODUS

Zespół Pieśni i Tańca „Śląsk” im. Stanisława Hadyny  
スタニスワフ・ハディナ記念、  
ポーランド国立合唱民族舞踊団「シロンスク」

住所：

42-286 Koszęcin – POLSKA, ul. Zamkowa 3  
tel.: +48 34 310 64 15; fax: +48 34 310 64 16

e-mail: [info@zespolslask.pl](mailto:info@zespolslask.pl)

[www.zespolslask.pl](http://www.zespolslask.pl)

STANISŁAW HADYNA'S 'ŚLĄSK' SONG AND DANCE ENSEMBLE IS A CULTURAL INSTITUTION OF THE SILESIA  
SELF-GOVERNMENT CO-FINANCED BY THE MINISTRY OF CULTURE AND NATIONAL HERITAGE

 Śląskie.

Ministry of  
Culture  
and National  
Heritage of  
the Republic  
of Poland.

 Śląsk  
Stanisław Hadyna's Song and Dance Ensemble

“インスピレーション溢れる舞踊  
—フォークロアから現代へ”

"Exodus": <https://www.youtube.com/watch?v=ZHarj0yEdZ0>

Dance workshops

Polonez: [https://www.youtube.com/watch?v=yZsA88hS\\_iM&feature=youtu.be](https://www.youtube.com/watch?v=yZsA88hS_iM&feature=youtu.be)

Krakowiak: [https://www.youtube.com/watch?v=O\\_Psz1RP-94&feature=youtu.be](https://www.youtube.com/watch?v=O_Psz1RP-94&feature=youtu.be)

Trojak: <https://www.youtube.com/watch?v=UVkpSQUNcJo&feature=youtu.be>

blogs

[http://blog.livedoor.jp/gliding\\_flight-joe/archives/55275549.html](http://blog.livedoor.jp/gliding_flight-joe/archives/55275549.html)

[http://blog.livedoor.jp/gliding\\_flight-joe/archives/55295693.html](http://blog.livedoor.jp/gliding_flight-joe/archives/55295693.html)

“インスピレーション溢れる舞踊

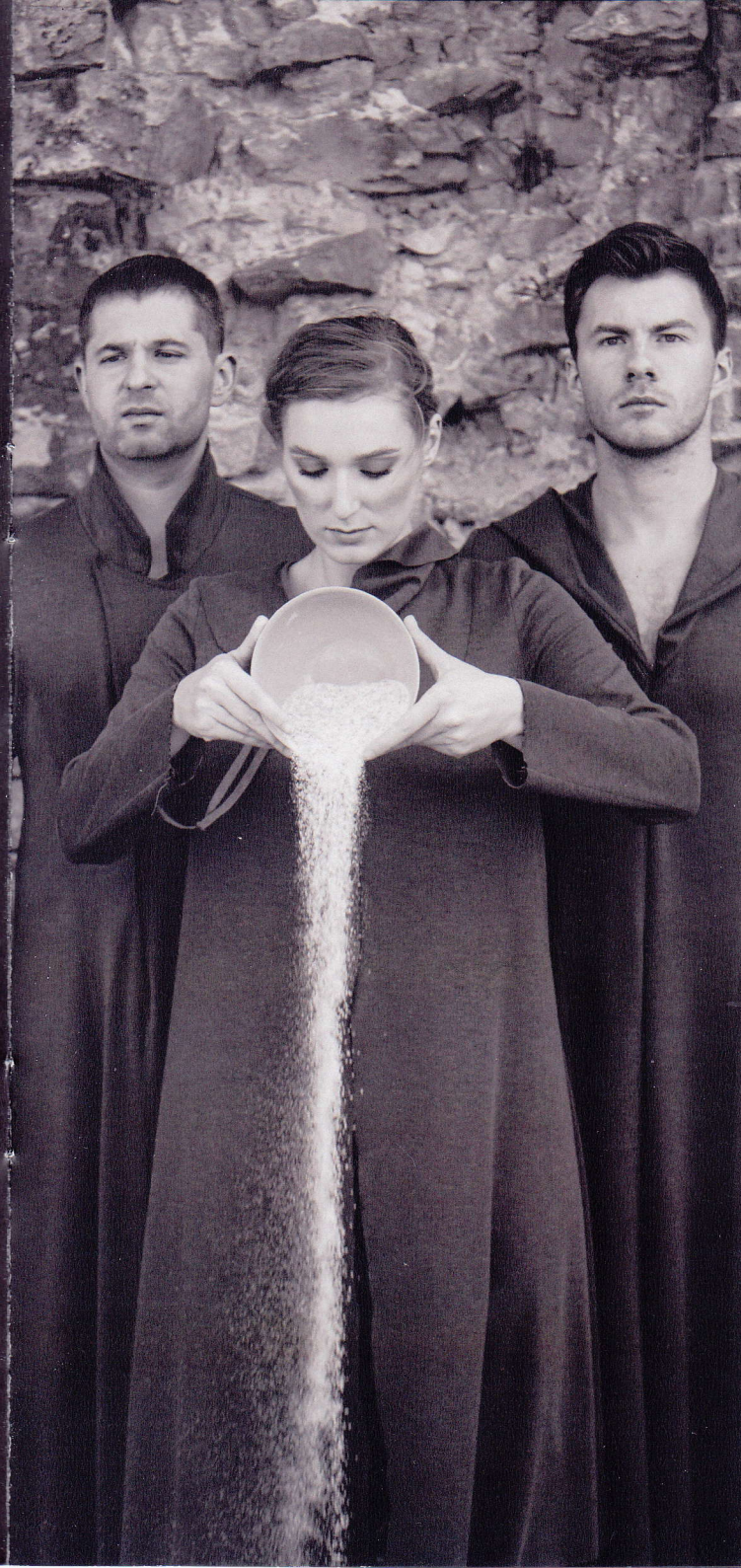
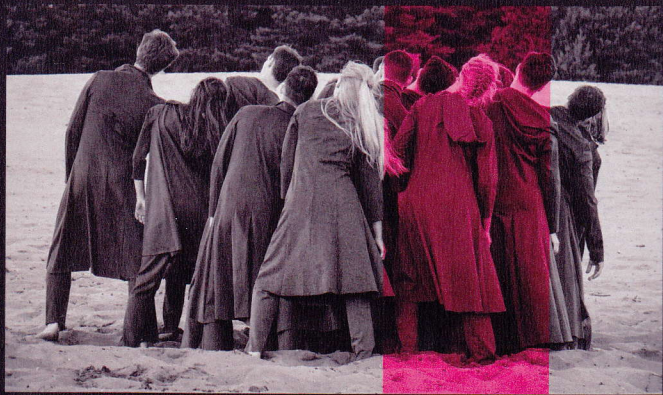
—フォークロアから現代へ”

ポーランドの民族文化、まもなく日本上陸

ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」は、プロジェクト“インスピレーション溢れる舞踊—フォークロアから現代まで”を実施する—それは、革新的なポーランド文化普及促進事業・ダンスパフォーマンス『Exodus／エクソドゥス』を日本に紹介するものである。当プロジェクトは、その斬新な着眼点が評価され、ポーランド文化・国家遺産省の事業「インスピレーションを促す文化」の一部として、国家の経済支援を受けて実現する。しかしながら、新型コロナウイルスの世界的感染拡大に伴い、録画のインターネット配信という形で紹介される運びとなった。「シロンスク」舞踊団は、ダンスパフォーマンス『Exodus／エクソドゥス』とポーランドの民族舞踊の録画をインターネット配信することで、現状の公衆衛生推奨事項を満たしながら、文化事業を従来の姿に戻すことを目指して戦略を進めている。幾多の課題の達成、並びに、各方面との協力活動を経て、ポーランドの民族舞踊は日本の視聴者により広く届けられるチャンスを得た。ダンスパフォーマンス“プレリュード”を含む超大作(スペクタクル)『Exodus／エクソドゥス』については、ポーランド広報文化センター主催・今秋開催のポーランド・フェスティバルでも告知される。また、11月に予定されている本作品のインターネット配信に先駆けて、東京、札幌、大阪、敦賀、岡山では、動画鑑賞会を開催するための準備が進められている。伝統に深く根付いたポーランドの民族舞踊の特異性を伝える3つのダンス～ポロネーズ、クラコヴィアク、トゥロヤク～の振り付けレッスン動画は、プロジェクトに欠かせない一部分となっている。

ダンスパフォーマンス『Exodus／エクソドゥス』は、世界の文化遺産におけるポーランド文化の存在・役割を明らかにすると同時に、その普遍性を示すことを目指している。芸術的意図としては、文化の変遷、即ち、伝統芸術と現代アートといった“遷り変わる”ダンスパフォーマンス・テクニックの連鎖を表現することである。同時に、現代舞踊と伝統舞踊を融合し、民族舞踊とフォークダンスのワークショップと組み合わせて紹介することで、国際的な舞踊・音楽界のコミュニティを結びつける一因としての、伝統的ポーランド文化—それは時代を超えたものである—の重要性を効果的に伝えていく。また、この企画を通して、日本のポーランドダンス愛好家の存在・貢献がより広く認識されることに期待している。

スペクタクル『Exodus／エクソドゥス』は、文化の具象的な出会いであり、舞踊団「シロンスク」の作品から着想を得た様々なタイプの舞踊と音楽のプレゼンテーションである。創作を手掛けたのは、ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」の振付師ミハウ・ズプコフ。ヴォイチェフ・キラルの音楽を通して、幸福、願望の実現、人々との親密性を求める旅としての“人生”を世界に示した人物だ。この作品はまた、自己の内省であり、他者との関係・結び付きを育む過程での内面的欲求でもある。ヴォイチェフ・キラルの音楽と多角的な舞台美術から成る空間で、生涯に渡る“人の旅”を物語っている。





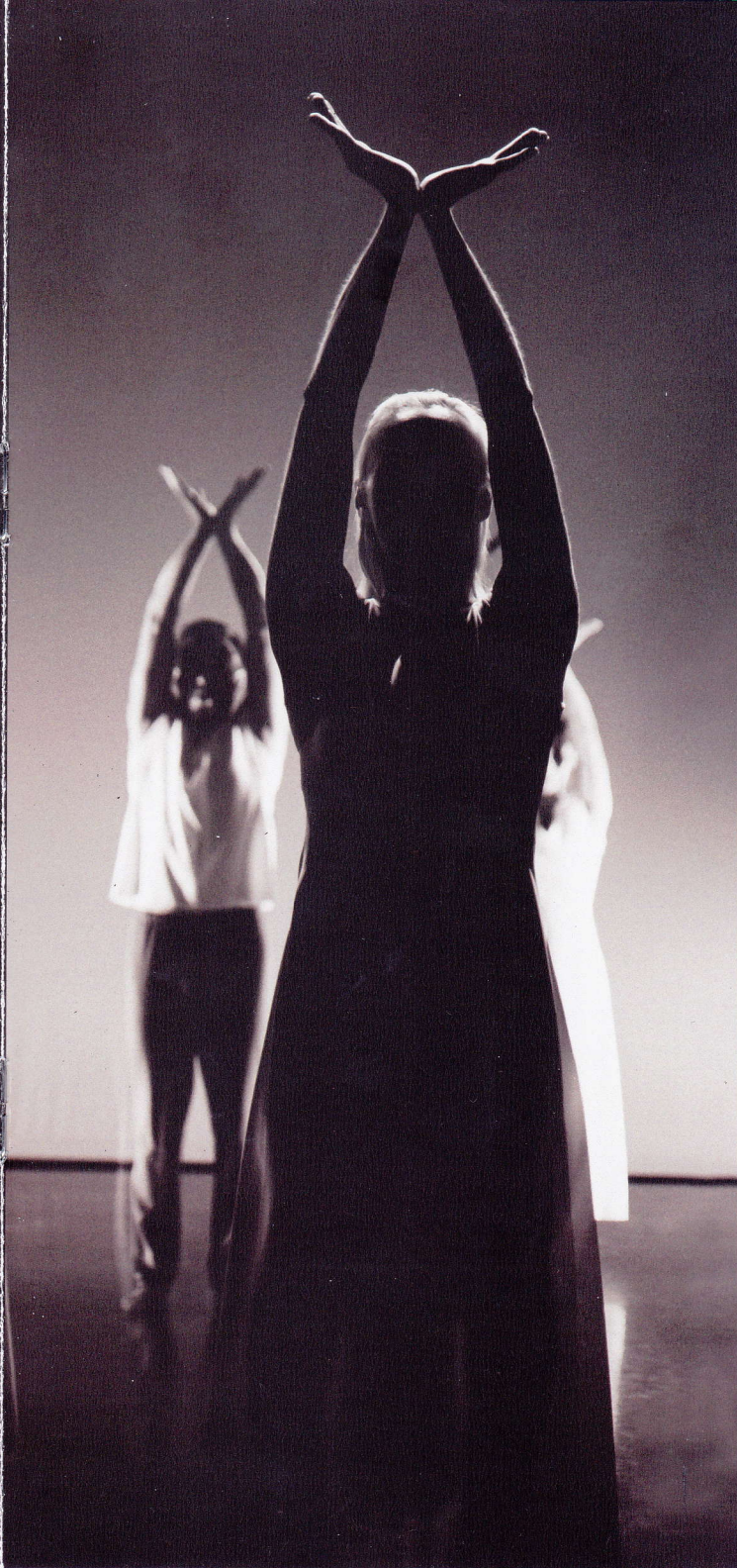
『Exodus／エクソドゥス』は、今から100年前の歴史的出来事に着想を得て創られた。1920～1922年、日本政府がロシア革命後の内戦下のシベリアに日本赤十字社を動員し、多数のポーランド人孤児を救済した事実である。日本の援助により、実に800人近くのポーランド人孤児が敦賀港に辿り着き、各地で手厚い看護を受けた。昨年、日本とポーランドは国交樹立100周年を迎えたが、今年2020年は、日本によるポーランド人シベリア孤児救済100周年なのである。

その一方で、第二次世界大戦中、ナチス・ドイツの迫害等から逃れるユダヤ難民のために自らの危険も顧みず、実に4,000を超える日本通過ビザを発給したリトアニアのカウナス領事代理・杉原千畝氏の生涯には、より強いインスピレーションを得たと言える。救済された者の多くはポーランド人で、シベリア孤児と同様に敦賀港を経由して日本上陸を果たした。

このスペクタクルは、大集団での逃亡あるいは移動において、一人一人が究極の試練に立たされる現象について物語る。それは、各々の人間の内なる真実一本質を明らかにし、自らに選択を迫る一種のテストのようなもの。大集団の動きの渦に引き込まれながらも各自が自立性を保ち、自身の直観、感情、常識をもとに、自己のルールに従って最終決定を下していく。こうして、魂の根源を彷徨う孤独な旅は始まるのだ。宇宙の大海を旅する他者の合間に、自分の場所を見つけることを目指して—。物語の流れを効果的に演出する舞台美術は、注目に値する。



ダンスパフォーマンス『Exodus／エクソドゥス』は、世界で最も栄誉あるポーランド人ピアニスト兼作曲者の一人として知られるヴォイチェフ・キラルの音楽に準じている。クラシック音楽と映画音楽の双方を手掛け、白鷲勲章及び星付きコマンドルス十字勲章をはじめ、数々の権威ある表彰を受けた人物だ。ヴォイチェフ・キラルの初期の作品には、新古典主義の影響が見られるが、作曲家は後に、ベラ・バルトーク、イゴル・ストラヴィンスキー、ドミトリイ・ショスタコーヴィチの音楽からインスピレーションを受けている。1960年代はクシシュトフ・ペンデレツキ、ヘンリク・グレッツキ両氏と創作活動を共にし、その後の10年間は自身のルーツと民俗音楽(フォークミュージック)に回帰した。1960年代、「シロンスク」舞踊団の申し出に、約30曲の歌とダンスのためのフォーク・ミュージックを作曲し、それらの作品は、今なお「シロンスク」のレパートリーに大きな輝きを与えている。「前奏曲とコレンダ」、「ボグロジツァ(神の母)」などの宗教音楽作品もこの時期に創られ、クラシック音楽の他にも数多くの映画音楽を生み出し、世に広くその名を知られることとなる。キラルは、アンジェイ・ワイダ、クシシュトフ・ザヌッシ、ロマン・ポランスキー、フランシス・フォード・コッポラらポーランド及び世界最高峰の映画監督と仕事を共にし、ポランスキー監督の映画『吸血鬼(1967)』をはじめとする130以上の映画作品の音楽を手掛けた。





ポーランド文化・国家遺産省の支援事業である当プロジェクトは、以下に挙げる各団体の協力を得て実施される運びとなった：ポーランド広報文化センター、人道の港敦賀ムゼウム、シアターX（カイ）、フォーラム・ポーランド組織委員会、公益社団法人日本フォークダンス連盟、日本・ポーランド民族舞踊友好協会、北海道ポーランド文化協会、在日ポーランド芸術・科学ミッション、ビトム市ダンス・ムーブメントシアター「ロズバルク」。

超大作『Exodus／エクソドゥス』は、ポーランド文化・国家遺産省の支援事業（2017～2022）「多年に渡るNiepodległa（独立）」の一環として実地された国際文化事業『ポーランド100』の一部として、アダム・ミツキエヴィチ・インスティテュートと共同で実現される。

*niepodległa*

POLAND  
THE CENTENARY  
OF REGAINING  
INDEPENDENCE

**CULTU  
RE PL**

ADAM  
MICKIEWICZ  
INSTITUTE



プロジェクト『インスピレーション溢れる舞踊—  
フォークロアから現代へ』

革新的ポーランド文化普及促進事業・ダンスパフ  
ォーマンス『Exodus／エクソドゥス』

助成 ポーランド文化・国家遺産省

助成事業名「インスピレーションを促す文化」

Ministry of  
**Culture**  
and National  
Heritage of  
the Republic  
of Poland

スタニスワフ・ハディーナ記念、ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」（創設1953年7月1日）は、国内のみならず世界的にも知名度の高いポーランド芸術の「ブランド」である。その栄光への礎は、自らの生涯を「シロンスク」に捧げたスタニスワフ・ハディーナとエルヴィラ・カミンスカの二人に負うところが大きい。「シロンスク」舞踊団の名声と高い芸術性は、優れたアーティストと指導者達が幾世代にも渡って築き上げてきたものである。現在では膨大な数の公演をこなすキャパシティーをもつ文化機関であり、その年間公演数は200回にも及んでいる。百人を超えるアーティストが所属する合唱団、舞踊団、オーケストラから編成されている。世界に向けたポーランドの偉大なアンバサダーである「シロンスク」は、これまで5つの大陸、世界44か国で9000公演を行い、のべ2千7百万人の観客を動員した。公演プログラムは十数パターンに及び、ダイナミックで色彩あふれるポーランドの各地方のフォークロアを余すことなく披露する大規模な総合公演から、育成を目的とした公演、クラシック音楽や宗教音楽のコンサートとレパートリーは幅広い。そのプログラムは、総合公演、合唱団コンサート、オーケストラコンサート、育成を目的としたステージ、舞踊アンサンブルと様々である。また「シロンスク」のオファーには新しい芸術表現を追求した成果であるショー形式の舞台やミュージカルなどもレパートリーに含まれている。十数枚に及びCDの発行も業績の一つだ。その他、内容豊富な育成活動や旅行業も手掛けている。2017年より、国家文化遺産省とシロンスク県との共営組織となった。「シロンスク」はコシェンチンにあり、文化遺産に登録された新古典主義建築では国内最大級の庭園付きの宮殿が本拠地となっている。

「シロンスク」舞踊団の基本精神は、伝統を大切にし、ポーランドのアイデンティティーとシロンスク地方のアイデンティティーを守りつつ、創設者であるスタニスワフ・ハディーナとエルヴィラ・カミンスカの残した舞台作品を継承していくことである。伝統と歴史とは、国としてのアイデンティティーを築く礎である。この精神を学ぶことによってアーティスト達の心は一つになり、文化と芸術のもつ可能性を活かすことがはじめて可能となるのである。ポーランドの文化的所産が忘れられてしまっはいけないという信念のもとに、「シロンスク」はポーランドの文化遺産をしっかりと守っていく。この観点から「シロンスク」にとって最も重要なものの一つに、創設期からレパートリーとなっているナショナルダンスがある。ナショナルダンスにはクラコヴィアックとポロネーズ、そしてマズール、オベレック、クヤビアックがある。また「シロンスク」は、国内外において、様々な文化がまじりあっていることが特徴であるシロンスク地方のフォークロアを紹介している。だから公演を行うとき最初に披露されるダンスは、この地方特有のダンスの1つ「トロヤック」なのである。





伝統舞踊を舞台用に昇華し、それを大規模で総合的な形式で公演するという自らの国の文化紹介の独自の方法は、世界的に見ても他に類を見ないといえる。このような芸術の表現方法を堅持していること、受け手にとってわかりやすい公演を行っていること、普遍性を兼ね備えていることが「シロンスク」合唱舞踊団が一地方という枠を超え、ポーランドの国を代表する「ブランド」となっている理由である。

所長 ズビグニェフ・チェルニャック  
芸術監督 ヤロスワフ・シフォンテック  
舞踊指導代表 ミハウ・ズプコフ

